

# Forest Good 2019 間伐・間伐材利用コンクール

## 応募申込書（継続的取組部門）

※受付番号 継続 1 4

会社名・団体名等 株式会社 共生

受賞年度 平成 23 年度

取組等の名称	間伐材を利用した間伐林立型枠工と擁壁工	
活動の種類	○	間伐材の利用に係る取組（製品生産、資材利用、生活用品など）
		間伐の実践（間伐の実施・普及、集約化取組、間伐技術の開発・工夫、間伐材の販売など）
		環境教育活動（地域住民への普及啓発活動含む）
受賞の内容 （概略）	間伐林立型枠工は、コンクリートの残置型枠、補強土擁壁工に間伐材を有効活用することで、間伐材の利用促進・コスト縮減を図るだけでなく、二酸化炭素削減にも寄与する。間伐材を縦に配置したことで、周囲の自然に溶け込むデザインとなっている。	
受賞後の展開 （受賞から現在 まで）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐材は地域産の小径木から大径木まで、皮付き丸太から円柱、太鼓落とし、半割れ、平割の加工木材まで幅広く利用できるよう構造を改良し、木材の利用拡大や作業員の高齢化といった課題の解決に取り組んでいる。実際に施工された「ウロンナイ川治山工事」では優秀工事として平成 30 年 3 月に表彰されている(写真-1)。</li> <li>・経年調査を実施し、10 年以上経過した間伐型枠工の間伐材が健全な状態であることを確認している(写真-2)。</li> </ul>	
今後の展開 （現在から未来 へ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐材を構造部材として活用し、エキスパンドメタルと組み合わせたハイブリッド構造の擁壁を開発。間伐材は健全度を判定したうえで 10～15 年程度での取替えを前提。取替えコストを含めた上で従来工法に比べてコスト縮減が可能。構造部材としての役目を終えた間伐材は木くず燃料として利用することで CO2 を削減。リニューアブルにともなう地場における森林土木事業の創出を図る。</li> </ul>	
取組の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐材利用</li> </ul> <p>平成 9 年から平成 30 年までの間伐材使用量累計：約 170,000 m<sup>3</sup>          平成 30 年度における年間の間伐型枠工施工数：林野庁 204 基・都道府県 264 基</p>	
その他	間伐材だけでなく竹材も同様のしくみを用いて利用できる。竹資源の有効活用によって環境負荷の低減と荒廃竹林の整備に寄与していきたい。	
取組、製品等の 写真、図表等	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>写真-1 ウロンナイ川治山工事(型枠)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>写真-2 前沢ガーデン桜花園 11 年経過後(補強土壁)</p> </div> </div>	

連絡先等 （公表可能な範囲 でご記入下さい）	（住 所） 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-23-1 新宿マルネビル （担当部署等） 本社 （電話番号等） TEL:03-3354-2554 FAX:03-3354-2659 （U R L） <a href="https://www.kyosei-kk.co.jp/">https://www.kyosei-kk.co.jp/</a>
------------------------------	---